

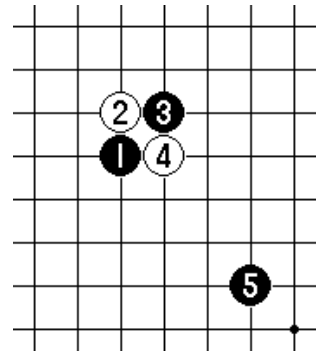
連珠っておもしろい

九段 河村典彦

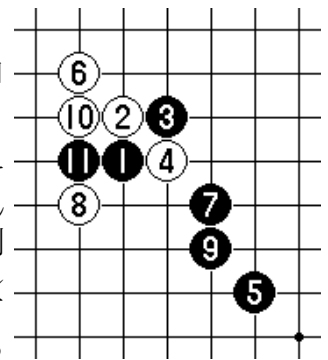
●第42回● 花月は進化する？

さあ、いよいよよチーム世界戦だ。その前に珠王戦があり、予選と調整を兼ねた戦いが行われた。中村九段を初め豪華メンバーが勢揃いした。実は私は珠王戦に出るのが初めてなのだが、今回は勝ちにくい気は全く無く、Bチームの状況と流行の作戦を教えてもらおうという気持ちであった。(わざとらしく言い訳に聞こえるが)

予想通り、世界の研究はかなり進んでいる。昨年の時点では不利といわれた局面が勝ちであったり、その逆であったり目まぐるしく結論が変わっている。今回、最も驚いたのが花月の進化であった。
田村君が中村九段を破った一局が印象深い。

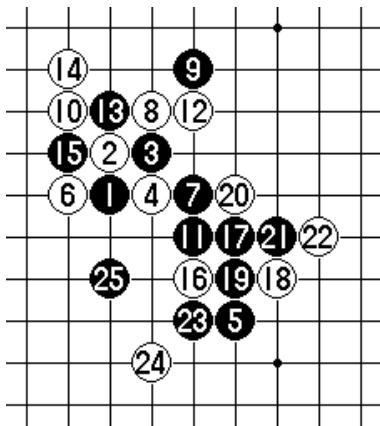


田村君が黒番だったのだが、黒5を何とこんな離れた場所を指定したのである。実は昨年の世界戦で既にこの地点は題数の候補になったのだが、気がつかなかった。一瞬見た時には「何じやこりや？」と思ったのだが、結論を聞くと結構有効らしい。まったくいろんな手があるもんである。
早速調べてみることにした。まずは白6と引きたくなるものだが、これは堂々と黒7と下から止めておいて良い。黒5の石は離れているようだが、黒1の石とつながっている。



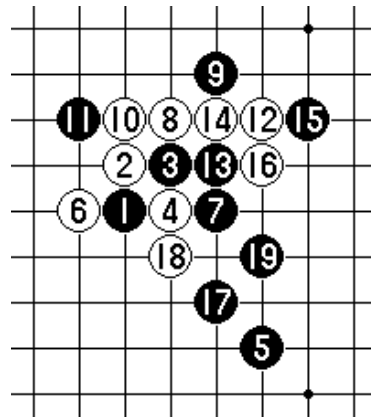
白8とけん制しても、黒9と引かれ、白10と一旦は先手で止めても黒11では白は打つ手がない。

白6と引く手がないとすれば、白6と打つのは自然だろう。中村九段もこう打ったのだが、すかさず田村君に黒7と打たれて敗れた。



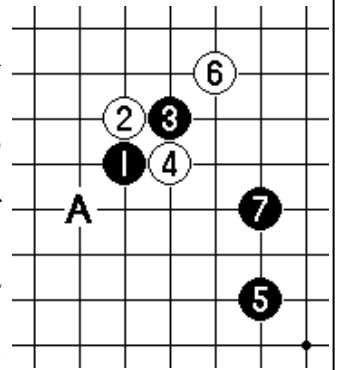
白8から引いて行ってそ

の後止めようとしてもなかなかうまく行かない。例えば白16まで止めても黒17とても組まれたらひとたまりも無い。とにかく、黒5の近くで組まれてしまうと、黒の思う壺である。

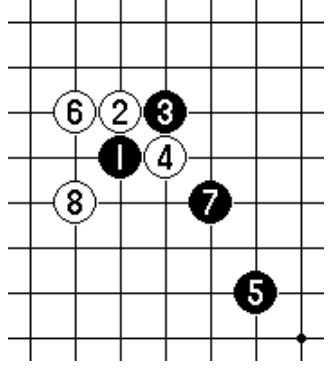


白10を少し工夫してみたのが右図である。こういうときはあまり引かない方がよい。ただし、黒も11と止めておけばいずれば黒5の石が活躍しそうだ。

もう少し前で変化するのも当然ある。白6と連を叩くのは常套手段なのだが、この場合は黒7で見事に黒



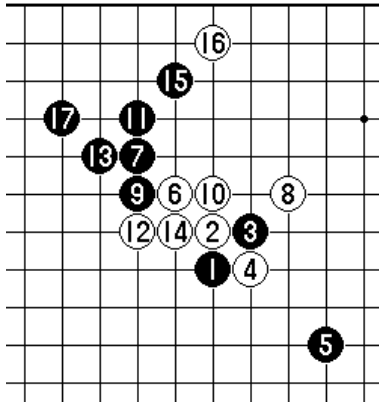
5の石とつながられてしま
う。先に黒7があれば次に
5と打つ手もあるから、黒
5はその点に先に打ってお
いたと解釈できるだろう。
では白はどう打てばいい
のだろう。一応今最も良い
とされているのが白6のよ
うである。確かに黒7なら
白8と叩いて黒よりスピー



ドが速い。しかし、例によ

ってこの説も新手によりひ
っくり返されてしまう可能
性もある。まずは自分で研
究することをお勧めする。
付け焼刃の知識では思わぬ
落とし穴にはまる危険性が
ある。

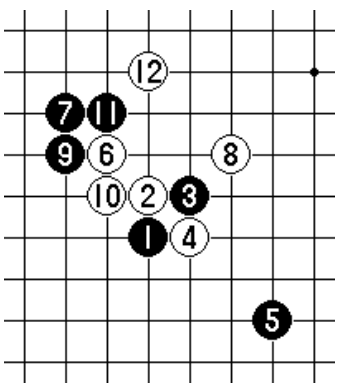
花月でもう一箇所懸案の
場所がこのスカシ止めであ
る。もともと白の剣先を浮
かして止めている訳だから
弱くはないが、攻めに回れ
るかがポイントである。



珠王戦での対小野戦で黒
5を打たせ、白6、8と打
ったのだが、黒9と打たれ
て研究を忘れてしまった。
(というか研究してな

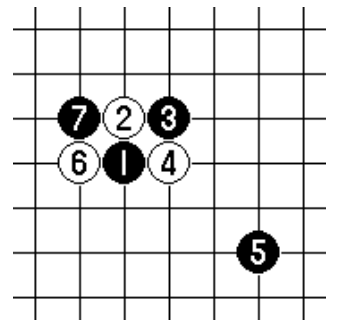
い?)白10と打ったのだが、
局後図のような勝ちがある
ことがわかった。白の剣先
をかわず黒17が妙手であ
る。実戦ではちよっと見つ
けにくい。

白10では図のように防
ぐ手がどうも唯一らしい。



黒11と固める手が強そ
うだが、白12で受かってい
るようだ。黒も9では10に
打っておく手が今は主流で
ある。

白6と引く手は白の権利
で得なように感じるが、黒
5と止められていることと
黒7に黒石が入る方が大き
く必ずしも白がいいとは限
らないようだ。



そこで最新形では白6を
引かずにここに打っている。
対して黒も7でこう牽制し
てここからのスタートとな
っている。今までの連珠で
は見たことがない形になっ
ており、題数指定打ちなら
ではの形と言えるだろう。
花月は題数が多いだけに
いろんな形が現われる。今
一番ホットな珠型と言える
だろう。今度のチーム世界
戦でも現われると思うので、
楽しみにして中継を見てい
て欲しい。とにかく、頑張
れ!日本である。また、今
回で連載が丸七年となった。
これもまた万歳!である。